



大豆由来のPS データを最も豊富に有する

リパミン® PS

リパミン®PSとは

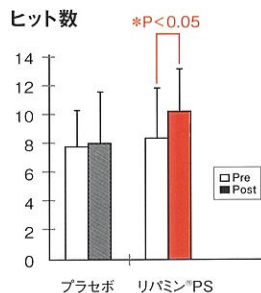
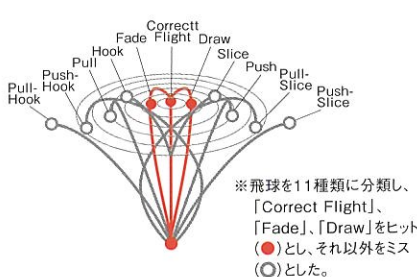
リパミン®PSは、大豆レシチン(リン脂質)からつくられたホスファチジルセリン(PS)です。ホスファチジルセリン(PS)は、脳細胞の成長を促し、活性化させるといわれています。

リパミン®PSは、高齢者の認識力改善をはじめ、ストレスやホルモンバランス、集中力、AD/HD(注意欠損多動性障害)、スポーツニュートリションに関して有効性が豊富に証明されている、大豆由来のPSです。

スポーツ分野における効果

集中力/ゴルフパフォーマンス

メンタルなスポーツと言われるゴルフにおいて、ハンディキャップ15~40の20~55歳の健常な男性20名にリパミン®PS(200mg/日)、またはプラセボを42日間摂取し、摂取前後にグリーンまで135mのところから20球打ち、ボールの飛行精度を計測したところ、リパミン®PS摂取群でボールの飛行精度が向上することが確認された。

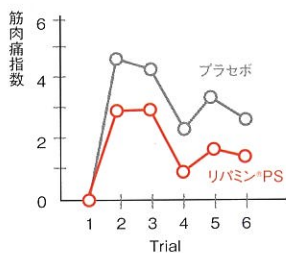


疲労軽減・充足感向上

ウェイト・トレーニングの経験を積んだ11人の運動選手(22.8±3.4歳)を対象にオーバートレーニング時の筋肉痛や充足感に対するリパミン®PSの効果を2重盲検クロスオーバー試験で評価した。試験期間中(2週間)に激しいトレーニングを8日行い、うち6回アンケートを実施し、3週間のウォッシュアウト期間を置いて、その後投与剤を変えて2週間同様に試験を実施した。その結果、リパミン®PS摂取(800mg/日)はプラセボ摂取群に比べて筋肉痛の軽減、充足感の改善効果が確認され、筋肉の分解を促進する異化促進ホルモンであるコルチゾールレベルの低下も認められた。

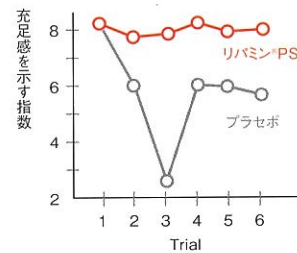
リパミン®PSは、過剰なトレーニングにおける身体疲労を和らげる効果が期待できる。

リパミン®PSによる筋肉痛の軽減



筋肉痛指数
10: 極度の筋肉痛で衰弱が基だしい
8: 筋肉痛がひどく日常の活動に支障がある
6: 筋肉痛で不快感が強い
4: 筋肉痛はあるが活動に支障はない
2: 軽度の筋肉痛
0: 筋肉痛なし

リパミン®PSによる充足感の改善



充足感を示す指数
10: 最高の気分
8: 非常に良い気分
6: まずまずの気分だが疲れを感じる時もある
4: ほとんどの場合に疲労感があるが機能は正常
2: 疲労感。精力減退で日常生活に支障あり
0: 極度の疲労感。流感類似の症状、極度の衰弱

記憶力の改善効果

高齢者の記憶力低下(Age Related Cognitive Decline、以下ARCDと略す)は疾病ではなく中年以降に起こる生理的過程と言えるが、このARCDが深刻になると仕事や人生において重大なトラブルを抱えることになる。

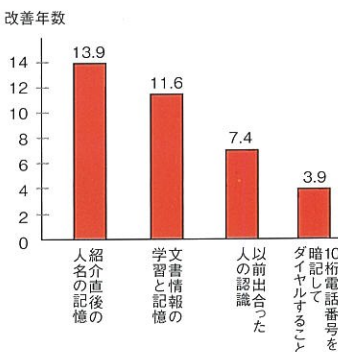
プラセボを超えるリパミン®PSの効能

リパミン®PSで、日常生活の種々作業などに通常見られる、加齢に伴う記憶力の低下を逆行させ得る。リパミン®PS(300mg/日)は、人名を学習し記憶する能力に及ぼす効果が最も顕著である。リパミン®PSを12週間投与した後、66歳の方が52歳の人のような成績を示し、年齢による衰えの14年近い逆行が認められた。

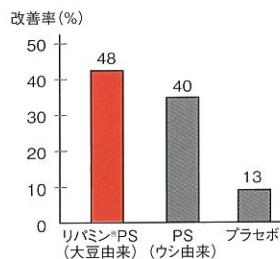
大豆由来リパミン®PSとウシ大脳皮質由来PSとの比較

大豆由来リパミン®PSの効能は、ウシ由来PSに匹敵するのみならず、統計学的有意差でリパミン®PSが勝っているほどである。

プラセボを超えるリパミン®PSの効能



大豆由来リパミン®PSとウシ大脳皮質由来PSとの比較 <紹介直後の人名の記憶>

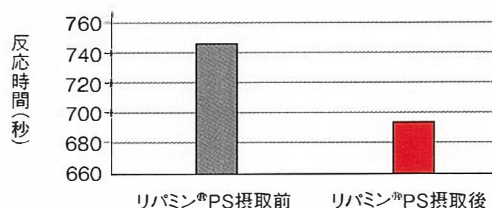


ストレス緩和効果

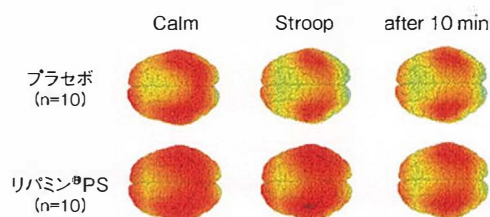
大学生男性20名にリパミン®PS (200mg/日) またはプラセボを毎日6週間摂取して、遅延聴覚フィードバック (DAF) テストによるテキストリーディングで被験者にストレスを与えた後、ストロープ・カラーワード・テストを実施した。その結果、反応時間及び間違い回数はリパミン®PS摂取群で有意に改善された。さらに集中力の指標となるシータ波シグナルもプラセボ群に比べてリパミン®PS群で有意に増加しており、試験終了から10分後でも高いシグナルが検出された。

リパミン®PSは精神ストレスを緩和し集中力を高める効果が期待できる。

ストロープテストにおけるリパミン®PS の効果



大脳の活動 (シータ波のシグナル)



AD/HD (注意欠陥多動性障害) の改善効果

AD/HD児36名 (4~14歳) にリパミン®PS (200mg/日) またはプラセボを2カ月間毎日摂取させたところAD/HDの構成要素である不注意、多動性・衝動性のいずれにおいてもリパミン®PS摂取群で症状の改善が確認された。更にAD/HDに関与すると言われるワーキングメモリの改善も確認され、リパミン®PSがAD/HDの改善に有効なことが明らかとなった。

		リパミン群 (n=19)		プラセボ群 (n=17)	
		Baseline	End	Baseline	End
DSM-IV -TR	AD/HD	11.4±3.2	7.2±3.9**	11.5±3.4	10.9±4.6
	AD(不注意)	6.7±1.7	4.4±2.7**	6.7±1.8	6.7±2.4
	HD(多動性・衝動性)	4.8±1.4	2.7±1.3**	4.8±1.6	4.2±2.0
go/no-go task	逆分握り忘れ(不注意)	1.8±3.3	0.1±0.3*	0.3±1.0	0.8±1.3
	逆分エラー数(衝動性)	3.4±2.7	2.9±2.8	3.2±1.4	3.2±2.6
	総エラー数	5.3±4.6	3.2±2.7*	3.5±1.8	3.9±3.1
WISC-III	ワーキングメモリ(順唱)	6.6±2.0	7.7±2.7*	6.5±3.1	6.9±2.4
	ワーキングメモリ(逆唱)	4.6±2.5	4.9±3.3	3.9±2.0	3.2±2.4

※群内において、統計的に有意な差が認められた項目(*:P<0.05、**:P<0.01)

特許第3924455号「ホスファチジルセリンによる注意欠陥多動性障害の治療法」



株式会社ヘルシーナビ
TEL: 03-6715-8068
Mail: info@healthynavi.co.jp



DKSHジャパン株式会社
TEL: 03-5441-4535
http://www.dksh.com/japan



Beauty Health Nutrition
ビーエイチエヌ株式会社
TEL: 03-5281-5661
http://www.bhn.co.jp